

第 563 回 放送番組審議会

1. 日 時 2020 年 5 月 19 日 (火)

2. 開催場所 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面審議

3. 委員総数 9 名

出席委員 9 名

委員長	大橋 綾子
副委員長	佐藤 健志
委員	加藤 千晶
委員	渡辺 理雄
委員	前田 千香子
委員	石田 亨
委員	柿木 康孝
委員	越沼 洋一
委員	緑川 智恵子

欠席委員 0 名

社側出席者	榎野 信治	(代表取締役社長)
	青山 尚之	(専務取締役事業局長)
	畑山 篤	(取締役編成局長 兼 報道制作局長)
	池田 学	(取締役経営企画局長 兼 技術局長)
	桑島 広実	(報道制作局次長 兼 制作部長)
	丸谷 尚史	(報道制作局制作担当部長)

事務局	小岩 祥子	(編成担当局長)
	室田 浩治	(編成局編成部)
	黒澤 星	(編成局編成部)

4. 議 題

①4 月 25 日 (土) 16:00～16:55「怪物王国 岩手と剛速球の謎」

②その他

5. 資 料

①自社制作番組放送スケジュール(2020年5月19日～2020年6月15日)

②視聴者からのご意見(2020年5月分)

6. 意 見

委員側意見

- 地元県民のアンケートも良かったが、他県からみた意見、他県出身で岩手在住の人の意見もあれば比較できて面白かったと思う。
- 問いかけられた謎は、①この10年間で、②岩手に、剛速球投手がつぎつぎ誕生したのはなぜか、だった。ここまで挙げられた要素は、おそらく近年に限られたものではなく、他県でも同様の条件を備えている事実もある。謎が収束しない印象を持った。
- 専門的な厳格な分析ということではなく、地元の方々が身近に感じられるような分析を中心として構成されており、多くの幅広い年代の方にも楽しんでいただける内容だった。
- “定性的”な検証検討であり、明快な結論には至っておらず、番組を見た後にモヤモヤ感が残った。
- コロナ禍で意気消沈しがちなこの時期に取り上げたことには、まず何よりも、視聴者を励ませ、励ましたいというテレビ岩手の気持ちを感じた。
- 自然環境や食べ物、県民性などについては30年、40年変わらないように思うので、「これらトップクラスのスケールの大きな投手がなぜ最近になって急に出了のか」というもやもやした思いが残った。
- ゲストの二宮さんはスポーツジャーナリストとしての豊富な経験や知識に裏付けされたコメントが随所にみられ、番組が引き締まった。明確な答えを導く必要はないと思われ、ゴルゴ松本さんはコメントで番組を盛り上げようとしていたので、本当に楽しく観ることができた。
- テーマに強く惹かれ、番組でその答えを見つけると期待していたが、明快な答えを得られず、多少モヤモヤした感じが残ったが、一方で、地方局として、県民を対象とした番組という観点では、岩手の良さを共感出来てよかった。
- 視聴し終わってみると、タイトルにあった「剛速球の謎」は解けなかったが、怪物のような大選手が生まれる要因を考え直すことができ、個人的にも大変に面白かった。できれば、本人の取材は難しくても、指導者やご家族の声をもっと聞きたかった。

局側意見

- 野球経験などをもとに専門的な意見を加えたかったのと、当初は金曜夜の放送を考えていたこともあり、野球に詳しくない視聴者にも番組を楽しんでもらえる要素を加え「野球フ

「楽しか楽しくない真面目すぎる番組」にならないようにしたいと考えたため。ゴルゴさんは認知度が高く、野球にも詳しいため、楽しく盛り上げてくれることを期待して起用しました。

○なぜこのような突出した3人が出たのか。指導法や技術面・体力面での他の選手とは違う3人の共通点などを直接的に探りたかったが、高校の監督の取材がNGだったこともあり、調べるのが難しかった。

○かなり制約がある中での取材・放送だったこともあり、すべてに満点回答を出すことはできないことをある程度前提とし、そのうえで視聴者の皆さんが知らないであろう情報を提供し、想像を巡らせる機会になるような番組を目指した。

7. 審議機関の答申または意見の概要公表方法

①テレビ岩手本社での備え置き

②読売新聞への掲載(掲載後送付します)

③自社HPでの掲載 <http://www.tvi.jp/banshin/index.html>